

保育上に於ける幼児の自由意志

目白幼稚園 和田 實

入園以來、未だ嘗て遊戯せぬ子供とか、入園以來、未だ嘗て返事をせぬ子供とか云ふものが、諸所の幼稚園にあると云ふことである。斯る子供を如何に取扱ふ可きかと云ふことは、相當考慮を要する問題ではあるまいか。此間も或地方の幼稚園から、參觀に來られた方の話に因ると、今年七才の男兒、來年は學校で、入園以來一年と三ヶ月ばかりになるが、未だ嘗つて唱歌を唱はない。色々とすかしても、獎勵しても、一向に効力がない。

然るに其子供も、自分の家では、可なり大きな聲で唱ひますれば、踊りもするそうである。唯、幼稚園に來たが最期、何うしても唱はないと云ふことである。誠に厄介なことである。前の遊戯せぬ

子供、返事せぬ子供も、矢張り此唱歌せぬ子供と同じ様に、自分の家では、相當に唱歌し、踊舞し、談笑し、呼應するのではないかと思ふ。若し、果してそうとしたら、是等の子供を如何に取扱ふ可きかは、一應、保姆の職掌上からも、研究して置く可きではないでせうか。

人に因ると、遊戯したり、唱歌したりすること、は、幼児の遊戯意識内の事であるから、幼兒自身に之を爲さんとする意志なき時に、之を強ひるのは壓制である。凡ての遊戯は自由を其屬性としなければならぬ。話しの聞きたいものだけに話し、唱ひたいものだけに唱ひ、踊りたいものだけが踊る可きではないかと云ふ人がある。此主義の人の

幼稚園では、先づ幼稚園内を二つに分けて、遊園又は遊戯室を自由遊戯場とし、其他の室を以て特種の作業場として、自由遊戯場から、畫を描きたい人、唱ひたい人、積木したい人、粘土したい人、お話を聞きたい人等を別々に、何人かづゝ募集し、此募集に應じた子供だけを、連れ行きて、其作業をすると云ふ様にして居る。一見誠に理想の様に見える。が併し、是が果して適當な行り方であらうか。此行り方で行つたらば、夫れこそ、入園以來、唱歌せぬ子供、遊戯せぬ子供、積木せぬ子供、畫き方せぬ子供、折り紙せぬ子供、等々の子供が簇々と輩出することであらうと思ふ。或は、簇々と夫れ等の子供が輩出するのが、よいのかも知れぬ。夫れでこそ、始めて、個性の眞の現はれかも知れぬ。が併し、吾人には少し受け取れぬところがある。

成程、自由は遊戯の屬性の一に違ひない。嫌ひ

なものを強ゆるのは、決して自由の發達を目標として居る現在教育の理想ではないかも知れぬ。併しながら、右述ぶる様な組織方法の下に生じて來る特種の子供が、果して、個性の本質から現はれた偏向であらうか。其頑強な執拗な意地張りは、果して、其幼兒の眞體を表はして居るのであらうか。若し果して其子供が、唱歌の出來ぬ子供、遊戯の嫌ひな子供であるならば、止むを得ないが、然もなく、唯一時の意地づくで、出鼻を折られたか、機を逸したかして、衆童の仲間に入り悪くして、其儘になつたとか、或は一時の怯怖、羞恥、因循、等が保姆の取扱ひの不適當な爲めに一層、出悪いものにされたりした爲めから來て居る等のことはあるまいか。是は餘程、考查を要する事件であらうと思ふ。万一にも、眞に幼兒の個性の表現でなくて、一時の執拗な意志の傾きから來たものであるとしたならば、夫れ等の幼兒に對する保

育者の誘導方法は大に考究を要するに相違ない。

吾人は從來の經驗から考へて、先づ、大體は、幼兒本來の個性の缺陷から來るのではなくて、多くは何等かの一時的な原因に依る一時的偏向であると思ふのである。従つて、右様の子供のあることを聞くと、吾人は、直に、もつと深く調査し、もつと能く愛撫し、もつと、努力して誘導す可きことを警告して居る。私が目白幼稚園を始めから、本年で十二年であるが、其間未だ嘗て斯様な執拗な子供に出會つたことがない。夫れは、入園當時、暫らくの間は遊戯せぬ子供も、唱歌も返事もせぬ子供も、隨分ある。尤も年々其數を減じては來るが、本年なども、未だに二三人特に偏向の著るしいのを見掛けては居るが、併し、例年の經驗に因ると、早きは一ヶ月、遅くも一學期中には皆通例の子供となるのが、さまりの様である。未だ嘗て在園中、返事しない子供や遊戯しな

い子供、唱歌しない子供と云ふのに出會つたことがない。或は、私の幼稚園に來る子供は、幸に皆普通の子供で、斯る特種の子供がないのかも知れないが、併し、私には何んだか當然のこの様に思はれてならぬ。在園中、數年の間も、唱歌しないとか遊戯しないとか云ふ様な子供はある可き筈がない様に思はれてならないのである。

何故と云ふに、凡ての遊戯と云ふものは、人間の本能に基くところの自發活動であつて、決して爲すには居られぬ筈のものである。食ふと云ふことは人間の本能であつて、食はずに居られぬが人間の本性である。是と同様に遊ぶと云ふことは、人間の本能の一つと見る可きである。此遊戯をしない子供と云ふものを、吾人は考へることは出来ないからである。夫れは、食物にも好悪がある。嫌いなものを無理に食べさせられぬと同様に、等しく遊戯にも種類がある。或種の遊戯を子供が嫌

つたからとて之を強ゆる必要はあるまいと云へば云へるでせう。けれども、之も餘程考慮を要する問題である。子供の食物の好惡位、あてにならぬものはない。食はず嫌ひもあれば其時々の一時的好惡もある。是と同様に凡べての遊戯に於ても、食はず嫌ひもあるし、一時の好惡もある。其時の天氣具合、對機嫌次第、如何様にも變ずるものがある。之を取扱ひ難いからとて放任したならば、我儘は固定して遂には、個性を形作るに至るであらう。吾人の最も怖れるところは是である。

好惡の多い人程、不幸な人はない。子供を養育するにしても、教育するにしても、成る可く好惡の少い人にしなければならぬことは、云ふ迄もないでせう。又、人は雜食動物で、魚も食べれば獸肉も食ふ。穀類豆類も食べれば野菜、海草、木の芽、草の葉迄、食べる様に出來て居る。好惡の少いのが當然である。遊戯活動に於ても同様に云ひ

得ないだらうか。多様の食物を同化することに因つて、複雑な身體を構造する諸原素を攝取するところが出來る様に、多種多様の遊戯に因つて、多方面の活動を遂げることが出來、従つて、多方面の發達が出來るとすれば、成る可く、多くの遊戯を爲せることが、圓滿な發達を遂げさせる第一歩に相違ない。而して、食物に好惡を感じさせない様に育てることが、必ずしも、難しいことでないと同様に、色々の遊戯に、多方面に遊戯活動を營ませることも、決して、然したる困難な仕事ではないのである。此處の道理を考へないで、唯單に、遊戯は自由なものである。嫌ひなものを強ゆるは悪い。いやなら、よすが好い。爲度くないものは來るに及ばぬ。と云ふ行り方は、餘りに、幼兒を成人扱ひにするものではあるまいか。斯くては、嫌ひでもないものに、嫌ひを教へ、好き嫌ひの少なかる可き筈の子供に、段々と好き嫌ひを多くさ

せる傾向を持たせるもので、頗る、まづい教育の方法と云はねばならぬ。理想の幼稚園は果して斯様のものであらうか。私は嘗つて御茶の水に在任して居つた時に、保育室を子供の組の名に因つて別けずに、仕事に因つて別けて、お話の室、手工の室、唱歌の室、観察の室、遊戯の室と云ふ様にして見様と思つたことがあつた。けれども、是とも幼児をして、常にお話の室に居らしめやうとか、手工の好きな子供に手工ばかり行らせやうとか云ふ意味ではなかつたので、随時に、自由に、子供を仕事に誘導するに便利な爲めにしやうと思つた迄である。併し、此計畫は色々の不都合があつて、實現せず済んで仕舞つたが、今では却つて、其様な計畫は一種の空想で、實際には、大した効果はない様に思はれてならぬ。矢張、普通の行き方で一向差支ない様に思ふ。行き方は普通の行き方で、差支はないけれども、幼児の自由意志

と間違つた我儘と執拗とは判然と區別して其取扱ひをせねばならぬ。勿論、凡べての遊戯は、幼児の自由意志で行らなければならぬ。然りとて、一齊に、遊戯しやうとする際に、勝手に仲間はずれになることを許すと云ふことは、頗る面白くない。是は遊戯上の自由意志を尊重する所以ではなくて却つて、幼児の我儘勝手を誘導し、募らせる様なものである。食時の時間には一齊に食卓に就く可きである。健康の變調で、今日は普通の食事が出来ないと云ふならば、兎も角、然らざる限りは、一齊に食卓に並ぶ可きではないか。遊戯や仕事にしても、此通りではあるまいか。尤も、大きい人々と共に、一齊に食卓に就き兼ねる程小さい子供が、普通の食卓に就くことなしに、濟ます様に、幼稚園でも、一齊に、外の子供と共に仲間入りの出来ない程幼弱な幼児に對しては、無論、除外例を置かねばならぬ。吾々も、是等の子供迄も、決

して無理に一所に仕やうと云ふのではない。又、是等の子供を除外したからとて、夫れが決して、他の子供の我儘を誘導したり、募らせる様なことはない。何となれば、是等幼弱な子供は、「赤ちやん」の部類に屬するものとして、一般の子供の一段低い位置に置いて、自分等は既に、其赤ちやんの域を脱して、子供の範圍迄に進んだものとして大に優越感を持つて居るものであるからである。私の幼稚園では、入園當初の仲間外れの子供をも段々に此筆法で待遇して居るので、優越感の鋭い子供程、わけなく、仲間入りして來る様である。容易に仲間入りの出來ない子供に對しても、決して、あせつたり、無理強いをしたりなどはしない勿論、其執拗な意地張りなどを苦にする様な様子などを見せ付ける様なことはしない。唯、何時迄も、赤ちやんとして特に愛撫し、特赦し、除外することを、明瞭にして置く。斯くすることに因つ

て、子供は何時なりとも、意の赴く儘に、衆童の仲間入りが出来る。仲間入りすることが、自己の優越感を満足させることであつて、降参や、強い執拗な意地張りの敗北ではないので、何のこぢはりもなく、進歩し、發達し來ることが出来る。併し、此處の呼吸に、取扱ふ保母の熟練と、大きな廣い光の見えた達觀振りとが、成功をさせるので未熟な先の見えない經驗の足りない人々には、一寸、不安に感ぜられるかも知れないが、併し何の心配もなく、何時の間にか、成功するものであるから、思切つて自由にす可きである。唯、自由にす可きであるが、放任す可きではない。何時も機會ある毎に、誘導することを忘れてはならぬ。

斯くしても、何うしても成功しないものがあらうか。吾々の經驗の範圍では、そんなに迄、頑強な執拗なものに出會つたことはないけれども、若し、萬一、あつたとしたら、次には其仕事の内容

の程度如何を調べて其子供の發達程度に副はしむ可く、考慮を費せばよいと思ふ。子供には食慾がある。子供の發達に副ふたる程度の、消化し易く同化し易き食物で、然も、美味であり、滋養のあるものであつたら、食はぬと云ふ子供のある筈がないと思ふが、何んなものであらう。

前の在園中唱歌しない子供、遊戯しない子供と云ふのも、保姆の取扱の不適當な爲めか、幼稚園の組織の不適當な爲めかにつて、幼兒をして、自分の自由意志を働かず機會を逸しさせて居るのではないだらうか。之を其成り行に任かせて、不適當な取扱をすること、除外例的な取扱をすることが、決して、幼兒の自由意志を重ずる所以とは云ひ得ぬ筈だと思ふ。是は、幼兒の自由意志を尊重し、其發動を待つ様に見えて、實は、幼兒の自由意志を縛りつけて、其發動を止めて居る様なものである。

故に、吾々は云つて居る。すなほに進行して行かぬ子供があつたら、進んで、もつとく、愛撫せよ、そして、今一層、進み來ぬ原因を調べよ、障害を取り除けてやれ、そして、御馳走を見せ付けてやれ、何時でも食指の行くに任せて取り得る様にしてやれと。斯くしても、すなほに進歩して來ないと云ふものは、考へられぬことである。話は違ふが、目白幼稚園の創設勿々に、一人の夫れは夫れは頑強に腕白な、我儘な、やんちやんな女の子の入園した事があつた。家庭の人は、何うにも手がつけられず困つて居つた。夫れが入園して一ヶ月程すると、家庭の人が、子供の様子の少し變つたことに、氣が付いた。一學期が濟み、二學期の半ばに達する頃には、全然、子供の様子が變つた。家庭の人が驚いた程、すなほになつた。頑強なやんちやんは跡方もなくなつた。食物の好惡などは、前には夫れは夫れは甚だしかつたものが

全然なくなつた。其變り方の甚だしいには近所の人
が驚いた程であつた。是なども子供の自由意志
で、我儘や、やんちゃんであつたのではないので
一に保育者の取扱の悪い爲めであつた。幸に早く
幼稚園に出した爲めに、之を矯正することが出来
たので、今年は或女學校を非常な優秀な成績で卒
業して居る。子供の自由を尊重すると云ふことは
ともすれば謬りを生ずる。間違つた自由を尊重す
ることは決して子供の自由意志を發達させる所以
ではなう。(丁)

謹啓

春暖之候益々御清穆賀し奉ります

借て私事近事と共に身体頭腦共に衰退し特に聴覺著しく鈍く
なりまして到底日々の激務に堪へ難く相成りました其上老母儀
已に十八年間の宿痾にて身體不自由で居ましたのが昨年來病勢
頓に募りまして全く不隨となりました此母の爲にも是非最後の
奉養をなし慰め度彼は苦心して居りました處今回徳風少年會に
お引受け仕て戴く事にお願ひ致しまして已に各手續まで全部終
了致しまして私も園長を辭退致した次第で御座います
徳風少年會は宗教的思想を以つて少年の教化を目的とせられ創

立已に十年間銳意斯業に御盡力されて居ます會の主事は實子小
學校長宇野喜八郎先生で經營者は原庫次郎氏其他四名の諸氏で
ありまして經費の點に付きましては何等憂慮する事なく教育の
點に於いては其宗教的熱誠と相俟つて將來永久の良き發達を期
待されるものと堅く信じて疑ひません私は斯くも良き後繼者に
お引受け仕て戴いた事を喜び同時に當福岡幼稚園の將來を祝福
いたしました茲に昭和二年三月三十一日創立二十五周年卒業生
九百六十五人現在園児八十五名を後にして引退いたしました余
命を病母の枕頭に送る事にいたしました

願みすれば私が幼稚園保母生活に入りまして茲に三十七年間
指を折りては只自ら驚くばかりで御座居ます私は性來余才加ふ
るに何等養もなく只一意専心子供の爲めに努めたるばかりで
あります何等取る所もなきに斯く長き年月の間に大なる過もな
く園の經績と斯業に従事爲し得ましたのは偏に皆々様の御指導
と御援助との賜のに外ならぬと感銘の至り茲に永年の御厚情を
厚く感謝致します

尙從來の通り御厚誼を賜らむ事を伏て希ひ上奉ります

先は引退に際しまして從來の御厚誼を感謝し尙退職御挨拶まで

敬具

昭和二年四月三日

元私立福岡幼稚園園長

荻野ヒサ

自宅福岡市大名町九八ノ三

日本幼稚園協會御中